

政務調査研究視察 報告書

平成19年 5月 11日提出

視 察 日	平成19年 5月 8日 (火) ~9日 (水)
視 察 先	千葉市 市町村アカデミー (市町村職員中央研修所)
視 察 内 容	市議会議員特別セミナー
視 察 者	澤 豊、新海 正春、杉浦 立美、園山 康男 計 4 名
千葉市	<p><講演内容について></p> <p>① 市町村アカデミー学長 (財)地域総合整備財団理事長 島津 昭</p> <p>② 作家 猪瀬 直樹 「この国のゆくえ」</p> <p>③ 慶應義塾大学政策、メディア研究科教授 金子 郁容 「学校教育の新しい潮流」</p> <p>④ NPO 法人岡崎研究所理事長・所長 岡崎久彦 「最近の国際情勢と日本の外交」当初、定員 70 名の募集予定が、結果的には 223 名が参加する人気のセミナーであった。 島津昭氏の講演では、これからの地方行財政について、税歳入はどれだけ確保され、補助金整理がいくらあって、そのバランスを調査しなければならない。また平成19年度新型交付税を算定し、今までに比較してプラスマイナスはいくらなのかを把握しなければならないなど、難しい内容に関わらず、理解しやすい説明であった。 猪瀬直樹氏の講演では、いわゆる「夕張ショック」について、債権団体になるまで何故わからなかったのか、市長、市議会議員は何をやっていたのかで始まり、分析すると誰かが何かをしてくれるという市民の依存体質にも問題がある。地方自治体の放漫経営のさきがけの姿であるとの事。また、景気が悪いとペットは飼わない、将来見通せてお金があると子どもを産む気になれるなどのデータ分析もあった。これからも国有財産の売却を提案していくとの事だった。 金子郁容氏の講演では、結びつきが希薄になった現代社会において、家族、地域のコミュニティーが崩壊しつつある。そこで提案するのが学校を拠点としたコミュニティーの再生であり、東京都三鷹市の都市型モデルと長野県天龍村の田舎型モデルの解説があった。興味深かったのは、市立の小学校の授業に担当教員 1 名の他に、ボランティアで生徒の保護者や卒業生など地域の人たちが一緒に参加している授業で、先生と市民の距離の近さを感じた。 岡崎久彦氏の講演では、日米の信頼関係の強化、アジアの国として、中国、韓国、北朝鮮とのつながりや、集団的自衛権について権利があっても行使が許されないのでは意味がないなどの問題点の指摘があった。 どの講師も各分野で活躍している方で刺激をうけた講演内容であった。本市においても37万人、中核市として予算の歳入、歳出に対して厳しくチェックし、予算を編成して将来の見通しを考えながらどのように反映させていくのかが必要であり、本市が全国と比較して相対的にどの程度の位置にいるのかを常に分析</p> <p style="text-align: center;">▲ 視察メンバー</p> 
	[感想・岡崎市への反映]

当初、定員 70 名の募集予定が、結果的には 223 名が参加する人気のセミナーであった。

島津昭氏の講演では、これからの地方行財政について、税歳入はどれだけ確保され、補助金整理がいくらあって、そのバランスを調査しなければならない。また平成 19 年度新型交付税を算定し、今までに比較してプラスマイナスはいくらなのかを把握しなければならないなど、難しい内容に関わらず、理解しやすい説明であった。

猪瀬直樹氏の講演では、いわゆる「夕張ショック」について、債権団体になるまで何故わからなかったのか、市長、市議会議員は何をやっていたのかで始まり、分析すると誰かが何かをやってくれるという市民の依存体質にも問題がある。地方自治体の放漫経営のさきがけの姿であるとの事。また、景気が悪いとペットは飼わない、将来見通せてお金があると子どもを産む気になれるなどのデータ分析もあった。これからも国有財産の売却を提案していくとの事だった。

金子郁容氏の講演では、結びつきが希薄になった現代社会において、家族、地域のコミュニティが崩壊しつつある。そこで提案するのが学校を拠点としたコミュニティの再生であり、東京都三鷹市の都市型モデルと長野県天龍村の田舎型モデルの解説があった。興味深かったのは、市立の小学校の授業に担当教員 1 名の他に、ボランティアで生徒の保護者や卒業生など地域の人たちが一緒に参加している授業で、先生と市民の距離の近さを感じた。

岡崎久彦氏の講演では、日米の信頼関係の強化、アジアの国として、中国、韓国、北朝鮮とのつながりや、集団的自衛権について権利があっても行使が許されないのでは意味がないなどの問題点の指摘があった。

どの講師も各分野で活躍している方で刺激をうけた講演内容であった。本市においても 37 万人、中核市として予算の歳入、歳出に対して厳しくチェックし、予算を編成して将来の見通しを考えながらどのように反映させていくのかが必要であり、本市が全国と比較して相対的にどの程度の位置にいるのかを常に分析しなければならないと感じた。